

特 33

932

太平學
校編輯

單語

第三編

單語第三篇

大陽系

內遊星

外遊星

北極星

南極星

十二宮

發光體

無光體

東經線

西經線

南緯線

北緯線

回歸線

子午線

恒信風

明治八年第十二月

單語

秋田縣太平學校編輯

彗圍氣

大陽系といふ大陽を中心とし其周圍を繞る所の一百十
四の遊星と二十個の衛星及び彗星等と總稱するもの
あり
諸遊星の中地球と大陽之間にあるものを内遊星とい
ひ地球以外にあるものを外遊星といふ
十二宮といふ白羊宮金牛宮雙女宮巨蟹宮獅子宮室女宮
天秤宮天羯宮人馬宮磨蝎宮寶瓶宮雙魚宮にして宮帶
を十二に分ちよるものありうの宮帶と總天を一周

その幅十六度の帯にして黃道の左右各八度つゝ、擴め
よるものといふあり

發光體と大陽恒星の如き自ら光線を發するものを
云ふ無光體といふ固有の光りある發光體より光線を受
けて光るものにて即ち大陰及び諸遊星是あり

回歸線は赤道の南北各二十三度半の處に畫せる線に
して北にあるを北回歸線といひ大陽此處に至れば夏至
とあり南にあるを南回歸線といひ大陽此處に至れば冬
至とある經線は皆赤道と直角に交りて南北を轉り一
周して大圓とす是即ち經度として某地の子午線と

名づくるものあり
零圍氣ハ大氣及ヒ蒸發氣等ヨリ成るものヨリて地を
離る愈遠けれハ愈輕淡かり而して其高さ地上より凡
十四五里ヨリ至るものあり

三大陸

五大洋

六大洲

東半球

西半球

多島海

開港場

居留地

波戶場

官有地

公有地

私有地

逍遙場

植物園

動物園

石炭坑

地球の全面を區別して二つとするの東半球ハ「アジア」
「ヨーロッパ」「アフリカ」及ヒ「オーストラリア」の大洲に
てその西半球ハ南北「アメリカ」の二大洲是あり
五大洋ハ太平洋大西洋印度洋南大洋北大洋をいふ太
平洋ハ東半球の東部と西半球の西部にあり大西洋ハ
西半球の東部と東半球の西部にあり印度洋ハ東半球
の中東にあり南大洋ハ西半球と東半球の南方にあり

北大洋の西半球と東半球の北部にあり
 現今日本の開港場の横濱、神戸、長崎、箱館、新潟、比五ヶ所
 あり此地への交易を爲すため外國人數多家宅を構へ
 寄留せり
 多島海に印度洋中より此邊數多島嶼の棋布せるよ
 り斯く名つけたるものなるへし

- | | | |
|-----|-----|-----|
| 紫震殿 | 内侍所 | 行在所 |
| 太政官 | 元老院 | 外務省 |
| 内務省 | 大藏省 | 陸軍省 |

- | | | |
|-----|-----|-----|
| 海軍省 | 文部省 | 工部省 |
| 司法省 | 大審院 | 宮内省 |
| 開拓使 | 地方官 | 裁判所 |
| 運上所 | 醫學校 | 教導團 |
| 天文臺 | 傳信局 | 書籍館 |
| 郵便局 | 博覽會 | 棄兒院 |

北大洋の西半球と東半球の北部にあり

現今日本の開港場の横濱、神戸、長崎、箱館、新潟、比五ヶ所あり此地よの交易を爲すため外國人數多家宅を構へ寄留せり

多島海に印度洋中より此邊數多島嶼の棋布せるより斯く名つけたるものなるへし

紫震殿 内侍所 行在所

太政官 元老院 外務省

内務省 大藏省 陸軍省

海軍省 文部省 工部省

司法省 大審院 宮内省

開拓使 地方官 裁判所

運上所 醫學校 教導團

天文臺 傳信局 書籍館

郵便局 博覽會 棄兒院

製絲場 製作處 燈明臺
大石塔 紀功碑 瓦斯燈

内侍所の宮内に在て天照大御神天孫に授々賜ひし神
器を齋祀し賜ふ所あり
行在所どの天子の駐蹕なし賜ふ假宮を云ふ而して其
最も名と著せるもの大和の國吉野川の南岸よめる
後醍醐帝の行在所あり此地ハ南朝三代五十餘年の間
駐蹕此所にして櫻樹滿山風景最美なりと云ふ
太政官ハ賞勳、法制、調査、等の局あり又た式部寮あり

内務省にハ勸農、驛遞、警視、地理、土木、社寺、衛生、會計、の諸
局あり大藏にハ租税、關稅、檢査、國債、出納、造幣、紙幣、常平
記録、の局々あり又々海軍にハ主船、水路、兵學、軍醫、等ハ
局あり工部にハ鑛山、鐵道、燈臺、電信、製作、營繕、の局々
あり皆政を敷化を施し人民を撫養なし給ふ處なり
樂兒院ハ貧人等ハ棄たる嬰兒を聚めて養育する所あり
「ロシヤ」にてハ最も之を重んし其費全く政所より出
て其法を立るも亦特に深切ありと云ふ蓋「ロシヤ」ハ
土地廣く人口少き故人口の蕃殖を急要とせざるを以て
あるへし

博覽會の各地の産物或は便利の器械及び古物奇品等
を聚め之を陳列し諸人をして之を熟覽し知識遊能を
増益せしむる爲に設るものあり
「エヤプト」の大石塔の方形ある石塔にして白粉石等と
以て層疊したるものあり其形の基礎より上方に向て
漸く減殺し其上頂に至てハ尖銳を爲し今ハ其數四十
あり而して就中最大なる者の其高さ六百尺にして基
礎二百尺なるものありと云ふ
瓦斯燈ハ石炭と蒸焼泥にして其氣を聚め街道の地中
に鎮管と埋めて其氣を傳へ管を以て管と接し市中ハ

縦横通達せしめ此鎮管より小管を枝別し市中の戸
ごとに其氣を引き火を點して燈と爲し或ハ道路ハ左
右にこれと設るものにして西洋各國ハ勿論已に東京
横濱等にも處々設立せり

高祖父	曾祖母	祖父母
從兄弟	從姊妹	左大臣
右大臣	裁判官	警察吏
近衛兵	鎮臺兵	常備軍

喇叭手 屯田兵 支配人

代言人 代書人 原告人

被告人 種痘醫 留學生

常備軍ハ國の内外不虞の事ある時母臨ミ直ちニ差遣
して之を征討一以て國家を保護する爲に平常備ふる
所の兵ニして銃臺兵即ちこれなり
屯田兵の北海道にあるもれの其地ニ土著して北門の
鎖鑰ニ備ふる所の兵といふ

爭論未決の事あり之を官に訴へ裁判を請ふものを原
告人といひその訴へらるゝ者を被告人といふ
代言人ハ原告人或ハ被告人の依頼を受け本人に代て
辨明する者なり其訴訟の文書と作る者を代書人とい
ふ

他國に在留して學問練習する者と留學生といふ

天鵝絨 羽二重 寒冷紗

莫大小 烏帽子 鳶合羽

三止女 郡内絹 眞田紐

火浣布 雲齋織 綿縮緬

芭蕉布 晒木綿 川越平

八丈縞 仙臺平

天鵝絨の或は純黒あり或は純白あり或は縞あり蓋し
それ品艶美にして光澤あること鵝翼に如きを以てか
く名けざるはならん郡内絹の甲州郡内より出づるも
比に去て其地厚玄而して其模様は菱形をなすも比あ
り縦横縞をなすも比あり京師にて擬織するも比を京

都郡内と名く絲細くして軟弱あり

三止女或は聖多賦とも書す南印度は地名されとも此
地より舶來せるを以て即ち其名とせり

火浣布の石麻を以て織成せる布にて垢つきたる時火
に焼くとき復清潔にあるものなり

葡萄酒 保命酒 小麥粉

砂糖漬 橄欖油 丁子油

干温飴 煎海鼠 鱈子鼠

味噌漬

鮑熨斗

莧莠玉

橄欖油ハ橄欖樹の實より絞りたる油にして洋名オリーブ油といひ橄欖樹ハ熱帶地方に生し高さ二丈或ハ三丈にして枝の最も繁き樹なり
 味噌漬鹽漬など總して久しく漬置きたる物の唯珍らしき味あるのみにて人體の養をなさざるのみならず却て消食器を害するものなり
 砂糖漬の菓子類にてハ世俗に桐子佛手柑蜜柑天門冬生薑冬瓜の類を賞味す然れども此等の物ハ人身に利益少なく毒害多きもの故多く食すへららず

顯微鏡

望遠鏡

避雷柱

晴雨計

寒暖計

地球儀

輕氣球

泳氣鐘

排氣鐘

寫眞鏡

時辰儀

袂時計

蒸露罐

傳信機

羅針盤

雙眼鏡

新聞紙

活字版

日記帳	龍吐水	施條砲
忽微砲	人力車	馬蹄鐵
風呂鋪	空耳子	拂塵子
薑擦子	貝杓子	煙草盆
走馬燈	唧筒器	吹火筒
雁皮紙	居風呂	三稜錐

引火奴 案山子 檜細工

顯微鏡ハ肉眼にて見る能とさる諸物を見顯すこと極めて妙なり氷の清淨無色なるも顯微鏡を以て之と見るとさハ無數の小蟲ありて一々數ふへし

望遠鏡ハ天學に於て重要な器なり往古より現今に至るまで多くの人の發明によりて此器の精微を増加し之に依て天學の發明も彌々精密に至れり

避雷柱ハ米利堅の理學者フランクリン氏雷ハ「エレキトル」の作用なるを發明せしるより出するもこれにて

ト

ト

人家の棟上に柱を建て柱上の金属に鏡を繋ぎ之を平
地或ハ井水等に投入せ置き「エレキトル」若し屋上に近
つくどきハ柱上の金属より鏡に傳はり地上或ハ井中
に墜下するやうに設けざるものなり
輕氣球ハ大なる袋の中へ大氣より輕き氣即ち水素瓦
斯と貯へ之に藤蓐にて製したる箆の如き物にく、り
付人其の箆のどきものを船となし其上に乗て空中
に昇るものなり

新聞紙ハ其時の珍事奇聞を探索し之を記して世間に
公布するものなり官命の公告官吏の進退市街の風説

外國の形勢學藝の進否交易の盛衰耕作の豐凶物價の
高低民間の苦樂高貴名家の死生存亡等總して人の耳
目に觸て益ある事ハ逐一載て明詳あらざるなしよつ
て新聞紙を見れば世間の事情を摸寫して一目瞭然怡
も其事物に接するう如くならしむ故に聞見を博くし
事情を審にし世に處するの道を研究するにハ新聞紙
を讀まざんことあるへうらす
泳氣鐘ハ水中の物を取上くるに用ゐる排氣鐘ハ大氣を
抜き出し無氣中の發現を試むるに用ふるものなり又
寫眞鏡ハ眞影を寫し傳信機ハ速信を要す昔古の大

家理學上より發明せしものにて其世に鴻益をなす勝
て敷ふへららす凡る前人の功緒を繼ぎ奮發研究する
ときい必ず前人未發の丕績を奏すへきこと獨り是等
の器のみならず

- | | | |
|-----|-----|-----|
| 赤降汞 | 自然銅 | 大理石 |
| 煉化石 | 試金石 | 柘榴石 |
| 金剛石 | 花崗石 | 木葉石 |
| 金剛砂 | 密陀僧 | 菊名石 |

- | | | |
|-----|-----|-----|
| 凝水石 | 馬肝石 | 端溪石 |
| 青琅玕 | 孔雀石 | 六方石 |
| 紫石英 | 蛇含石 | 安息香 |
| 返魂香 | | |
- 金剛石ハ世界萬物の中最も堅剛のものにて玻璃など
を截るにハ此石に如くものなし其價の高直なる亦世
界第一にして金銀等の能く及ぶ所にあらず
煉化石ハ粘土と煉燒して石となすものにて其長

家理學上より發明せしものにて其世に鴻益をなす勝
て數ふへあらす凡そ前人の功緒を繼ぎ奮發研究する
ときい必ず前人未獲の丕績を奏すへきこと獨り是等
の器のみならず

- | | | |
|-----|-----|-----|
| 赤降汞 | 自然銅 | 大理石 |
| 煉化石 | 試金石 | 柘榴石 |
| 金剛石 | 花崗石 | 木葉石 |
| 金剛砂 | 密陀僧 | 菊名石 |

- | | | |
|-----|-----|-----|
| 凝水石 | 馬肝石 | 端溪石 |
| 青琅玕 | 孔雀石 | 六方石 |
| 紫石英 | 蛇含石 | 安息香 |
| 返魂香 | | |
- 金剛石ハ世界萬物の中最も堅剛のものにて玻璃ほど
を截るにハ此石に如くものなし其價の高直なる亦世
界第一にして金銀等の能く及ぶ所にあらず
煉化石ハ粘土と煉燒して石となすものにて其長さ

八寸幅四寸厚さ一寸八分位なるを通例とす家屋建造に用ひて最も堅固且火災の患すくなし己に東京横濱の如き材木造りの製を廢し煉化石に改造するもの往々これあり

長州の赤間ヶ石甲州の雨畑石等皆硯石の佳品とす羽後比木葉石も亦硯とすへし

端溪石の支那硯石は最名品なるものとす然れども西國に出つるところの馬肝石の絶妙なるに如くす馬肝石の紫光白輝光線に隨て變幻し獨り硯材に用ふるのみならず其他種々功能あるものなり

青琅玕一に石珠といふ琅玕とい其聲に象る名なり石珠とい琢して珠と爲すへきを以て名つく海底に生ずるものなり

胡蘿蔔 玉蜀黍 隱元豆

落花生 大角豆 馬鈴薯

南京豆 青海苔 心太草

水欵冬 野蜀葵 鹿角菜

蔓豆 霜豆 佛掌薯

玉蜀黍俗に南蠻稷と云ふその子八月黄熟す摘取て之
を焙り食ふ其味脆美き里苞皮を剥かすして収め貯ふ
ときハ年と越て腐敗せざるも此なり
隱元豆の本名眉兒豆といふ此豆は種子ハ慶安年中宇
治黄蘗山に開祖隱元といふ僧に支那より持來れる故
に此名あり

水欸冬ハ欸冬中の上品なり此外赤莖青莖の二種あり
然れとも莖剛く味苦しこの水欸冬ハ質脆く味美なり
これを作るにハ山間或ハ樹下等日陰なる土地と擇み
て植へし日光の烈射する所に植るときハ生育よろし

からざるものなり

南京豆を俗に藤豆と呼ぶ白花紫花兩種ありて藤花に
似たり此豆ハ莢共に食ふへし花の色も奇麗よりて庭
園の景を裝ふに足る

蔓豆ハ四月より六月中までに漸々時へし然るとき
ハ八九月の頃までに實のるものなり

霜豆と稱するものハ六月より七月上旬までに時て
十一月頃に至り霜のふりしのうち採り収るものなり
豆に木立と蔓生との二種あり此霜豆ハ木立豆の一
種なり

大白桃	五月桃	西王母
青梨子	丹波栗	信濃梅
巴旦杏	無花果	覆盆子
佛手柑	五倍子	蓖麻子
肉豆蔻	山梔子	杜松子
九年母	吳茱萸	

大白桃五月桃伏見の佐桃此三種を桃の佳品と爲すと
 雖も又一種世々西王母と稱する桃ありて花濃く實大
 に味尤美あり之を桃中第一れ上品とす桃の實時によ
 るときは僅かに四年目位にして必らず花を著け實を
 結ひ果樹中に於て作法最も無造作あるものあり
 丹波栗の栗中の佳品なり信濃梅の其實小あれとも其
 味最も實すへし

鑊刀木	孟宗竹	寄生樹
菩提樹	秋海棠	千日紅

万年青 鷄冠花 牽牛花

曼陀羅 仙人掌 車前子

噴雪花 天門冬 向日葵

福壽草 合歡草 怕羞草

嬰子粟

千日紅の二三月は頃種を蒔き秋に至て花開く紅白二種あり天和貞享年中に初めて他邦より渡來する也此

と云ふ

仙人掌ハ一に霸王樹といふ原種の海外の暖國より來るものにして本邦に於ても駿河安房等にてハ能く生植し其大あるものハ特によく花を着け實と結ぶ花ハ蒲色にして形の黃薔薇の如し實ハ母指の大きよして中み仁ありこの枝を折てりの折口へ灰を付け暫く日にさらしてふれを温地に指木とさすとさハよく根つくものありと云ふ

天門冬ハ其葉杉に似たり故に東國にすまかつらとも云ふ其蔓長して木竹に纏ふ又一種蔓生ならざるもの

あり其根母の如し之と掘取り湯をかけ莖と皮とを
去り乾かして薬とす又壓して液を搾去り砂糖に漬け
或ハ蜜に漬けて味美なり
合歡草怕羞草の一種の奇草にして人之に觸れハその
葉忽に欽合し良久久せされハ舒起せず又「アメリカ」の
或る澤中に一種の草あり其葉の面に蛤殻の如きもの
あり兩殼中に數毛あり蚊蠅等と之に觸れハ即ち合し
て之を殺すと云へり

罌子粟の罌子の實なり此艸ハ一年草にして滑澤綠色
の莖直立し高さ二尺より五尺に至り卵圓形の大葉を

生ハ或ハ白色或ハ銀灰白色或ハ紫色の大花と開く其
種子の色に従ひ白黒の兩種に分つ通常白種を阿片草
と名づく其殼に毒あり所謂阿片煙草の酷毒物是れな
り然れども種子ハ全く麻醉の性なし

- | | | |
|-----|-----|-----|
| 烏骨鶏 | 巧婦鳥 | 啄木鳥 |
| 秦吉了 | 涉水鳥 | 無翼禽 |
| 告天子 | 時辰鵲 | 七面鳥 |
| 五位鷲 | 花蜘蛛 | 臘肭臍 |

鳥骨鶏ハ其毛色に白わり黒あり或ハ斑毛あるものあり
きとも其骨ハ皆黒し因て鳥骨鶏と名つく又骨肉とも
ふ黒きものあり虚勞羸弱の人之を煮食せハ補益あり
といふ

啄木鳥一に列鳥といふ此鳥剛爪利嘴よく樹木を啄裂
して蠹虫を取て之を食ふ故よこの名あり
秦吉了ハ鸚鵡の如く能く人言をなと鳥類なりといふ
涉水鳥ハ鸛鶴の属にして頸足皆長一故に氷を渉るに
利あり其類數種あり大小長短其形を一にせず毎に水
濱に於て魚蝦と啄む總て其嘴長く且鋭く一て遊魚を

窺ひ之と啄射するに當てハ曾て一尾を以て能く脱せ
まむること多しと云ふ

無翼禽の一種類亞非利加洲に産するものを駝鳥と名
つく其毛甚珍貴にして片羽數金に鬻くへしと云へり
此鳥頸腿並に長し蹄に趾ありて駝の如く物に追逐せ
らるゝときハ即ち足を以て砂石を抓つとめて後に
擲つ其勢炮礮石彈の如く之れに中るもの輒ち傷く土
人之を獵するに或ハ駿馬に騎て馳射一或ハ其毛殻を
服て近つき之を捕ふといふ身の高さ約る七八尺養て
馴熟せしむるとときハ騎て騾馬に代へり

胎生魚の我が北海に産す大なるもの二三尺全體魚類にして毛あり其頭部に似て口尖り耳垂なし其齒上一行にして下二行相並て長短組齒その尾岐をなし金魚の尾の如し其端更に各五岐あり其尾に針ありて堅きこと爪の如し總て毛色の如くにして毛根稍と黒し土人これと美饌の第一と爲す

胎生魚

軟骨魚

比目魚

蛙底魚

八目鰻

綠毛龜

石斑魚

鷹羽魚

銅頭魚

無血蟲

甲殼蟲

鸚鵡螺

華臍魚

飯章魚

胎生魚ハ鯨鯨河豚の類あり鯨鯨ハ口ハ鼻あり腹ハ膀胱あり胸ハ乳あり皮に鱗あり海底に涵淹する能ハず刻々必ず水面に出て生氣と呼吸すこと亦水屬の一種と雖とも他の鱗介と自から別あり雄を鯨と云ハ雌を鯨と云ふ色黒く眼細く睫毛あり耳孔あり頬骨網の如く牙あくして食を嚼む口房潤くして喉膈小あり又一種牙あるものハ其喉大なり飢るときハ口を張り以て魚

蝦を銜く遊くときハ羣を成し鼻を以て氷を噴くろの高さ十餘丈又至る胎一歳にして生む其長さ一十有二尺乳をのむ一年又して長す二十餘年を経て始めて大なり一沈澁まるとに水又入る深さ數百丈一浮起るとも呼吸約ろ八九息曾て之を獲て量りみるも首より尾に至り長さ七丈六尺胸の濶さ十四尺四寸頭の長さ七尺六寸翅一丈尾尖の横濶一丈八尺骨肉皮血共に重さ二百四十九噸脂油約ろ三十噸を得る英國及び米國等ハ鯨を捕へ油を取るを以て業とする多し其人大船に駕り北海に漂遊し日に人をして桅に上り千里鏡を以

て窺探せしめ鯨の起あるを見きハ即ち板艇を放ちて追尋し艇毎ハ七八人繩纜釣標等のものを携へ鯨の處に至り其起を伺ひ即ち釣標を以てつとめて其頂を刺し鯨の困極するハ及んで各槍刃を以て之を刺し疲らしめて之を捕ふといふ
軟骨魚ハ鯨海鰐等の其骨脆軟なるものをいふ無血蟲ハ肺臟なく其皮膚を以て呼吸の用を爲す蠶蝶蟲蜂蚊の類之に屬せり
甲殼蟲ハ内臟を有するものありと雖ども備らす而して五官を具せざるものなり凡ろ魚介昆蟲ハ内臟脈絡

五官神經等此あれの彼なし彼あれの此なし牡蠣の首
なく水蛭の腸なきか如きこれなり且其體の器械愈少
なるものゝ其活機感受も亦隨て愈鈍きものなり

單語第三篇終

明治十一年二月十四日翻刻御届
同年五月三十日出版

翻刻出版人

小笠原美治
東京神田五軒町
壹番地 弘令社

定價金五錢五厘

